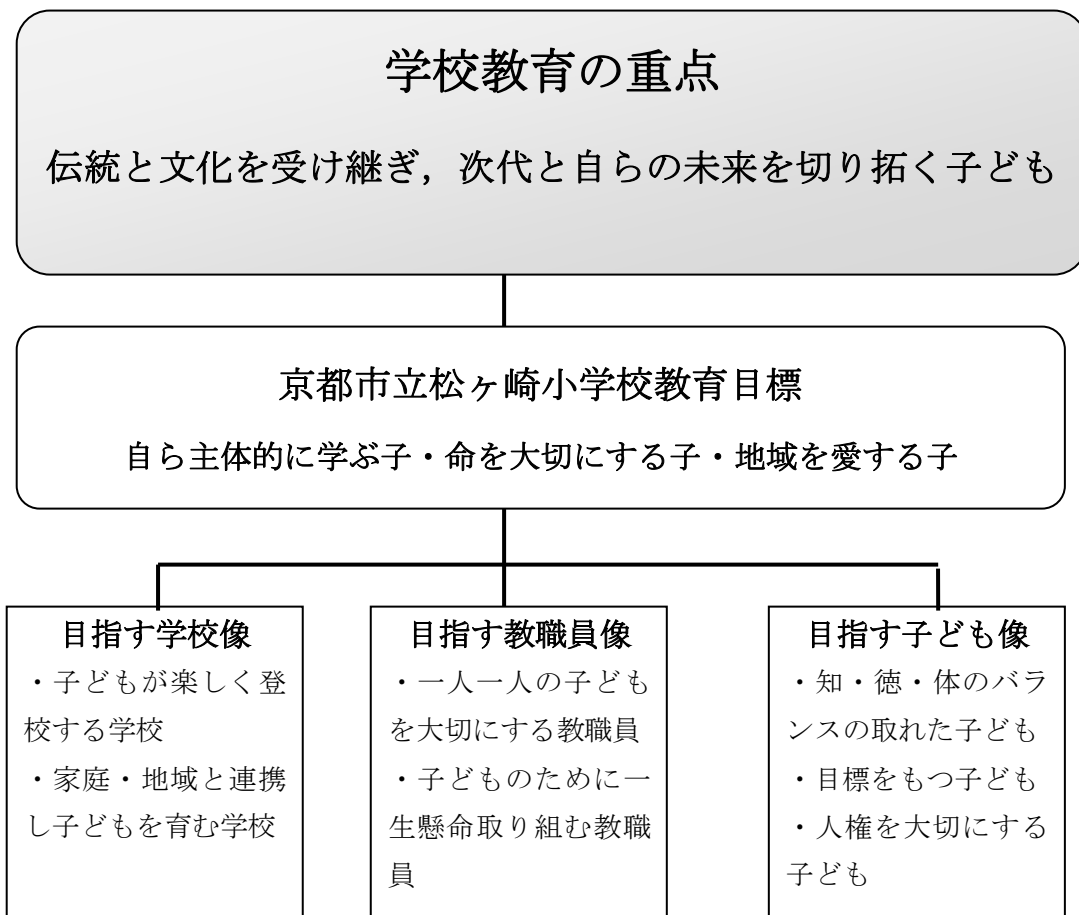


## 平成28年度



## ◎教育目標の具現化に向けて

### ○「確かな学力」

- ・「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる授業づくりを目指す。
- ・主体的に学習に取り組む能力を身につけさせる。
- ・すべての教科・領域において、コミュニケーションの育成を意識し、話し合い、討論会、プレゼンテーション、ポスターセッション等、工夫した設定の場を設定する。
- ・図書メディアセンターを自ら学ぶ「学習・情報センター」豊かな感性や情操を育む「読書センター」として活性化させるとともに、学習情報源として新聞等を計画的に利用させ子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。
- ・個々の子どもの課題を明確にとらえ、個に応じたきめ細やかな学力向上の取組を推進する。
- ・探究活動を充実させる。

## ○「豊かな心」

- ・ 道德教育推進教師を中心に、全教職員による校内体制を確立し、「しなやかな道德教育」の実践を推進する。道德の時間については、各時間のねらいを明確にし、多様で効果的な指導方法を工夫して充実を図る。
- ・ 規範意識を育成する。

## ○「健やかな体」

- ・ 生涯を通じて自分の健康を適切に管理して、改善していく資質や能力を育成する。
- ・ 食生活の改善に向けた意識・関心を培う取組を進め、食育の充実を行う。
- ・ 日常生活の様々な危険から、自分を守るための安全教育の取組を推進する。

## <学校運営で大切にしていくこと>

### ○子どもの命を守りきる

- ・ 子どもの命を守りきる教職員体制を徹底する。

### ○教職員の専門性を高める

- ・ 教員は「公開授業」を積極的に行い、自己研鑽に励む。特に若手教員は、研修会などに積極的に参加し、レベルアップを図る。

### ○保護者・地域との連携

- ・ 学校・家庭・地域が協力し地域の子どもは地域で育てるといいことを明確にし、互いに協力して子どもの成長を育む。

### ○学校評価システムの活用

- ・ 学校評価システムにより、学校の良さや課題を見つけ、課題改善に取り組む。

### ○人権教育の基盤を築く

- ・ 人権文化の担い手となる子どもを育成する。
- ・ 障害者差別解消法の中身を踏まえ、障害のある子どもの「困り」に対する具体的な取り組みを促進する。

### ○生徒指導の充実

- ・ 3つの「あ」の励行 「あいさつ」「あんぜん」「ありがとう」
- ・ 「見逃しのない観察」「手遅れのない対策」「心の通った指導」
- ・ 「社会で許されない行為は、学校においても許されない」という毅然とした態度で接し規範意識を育成する。